

(共同リリース)

2024年6月3日  
日本航空株式会社  
住友商事株式会社

JAL と住友商事、eVTOL 運航事業会社を共同で設立  
～空飛ぶクルマによる新たな空の移動価値の創造を目指して～

日本航空株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長・グループ CEO：鳥取三津子、以下「JAL」）と住友商事株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員 CEO：上野真吾、以下「住友商事」）は、2024年6月3日、「空飛ぶクルマ」と呼ばれる電動垂直離着陸機（Electric Vertical Take-Off and Landing、以下「eVTOL」（※1））を日本で運航する、「株式会社 Soracle」を共同出資にて設立しました。

JAL は、人やモノの移動を通じた関係・つながりを創出すべく、航空運送事業にて培った技術・知見、オペレーション・ノウハウを生かし、日本におけるエアモビリティの社会実装と事業展開を目指しています。

住友商事は、長年取り組んできた航空事業の多角化を目指す中、2018年からエアモビリティ分野における事業化に取り組んでいます。2020年にエアモビリティの社会実装に不可欠な無人機管制システムの開発企業に出資するなど、日本で市場開拓を行っています。

JAL と住友商事は、2020年にエアモビリティ分野に関する業務提携を締結（※2）し、eVTOL を用いた移動サービスの実現に向けて取り組んできました。また、2025年大阪・関西万博を社会実装に向けたマイルストーンと位置づける「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル（※3）」に参画するなど、次世代エアモビリティの事業展開に向けた検討・準備（※4）に取り組んでいます。

今般、JAL の航空運送事業における安全運航のノウハウ、住友商事の航空業界におけるネットワークや多角的な事業活動を通じて培ったノウハウなど、両社の強みを生かし「株式会社 Soracle」を設立のうえ、協力関係をさらに強固なものとし、eVTOL 運航事業を通じて、エアモビリティ事業の取り組みを加速していきます。

両社は、安全・安心な空飛ぶクルマの社会実装を実現し、地域を結ぶ交通ネットワークを構築し、新たな空の移動価値の創造を目指していきます。

## ■会社概要

社名 : 株式会社 Soracle  
事業内容 : eVTOL による航空運送事業  
設立 : 2024年6月3日  
資本金 : 2億円（出資比率 住友商事 50% JAL 50%）  
代表者 : 代表取締役 太田幸宏（住友商事）  
代表取締役 佐々木敏宏（JAL）  
所在地 : 東京都中央区

- ※1) eVTOL は、既存の民間航空機と比較し、電動のため駆動時の温室効果ガス排出量が格段に少ない、次世代エアモビリティです。滑走路が不要で離着陸時の騒音も小さく、環境にやさしいことも特徴です。また、維持管理が必要な部品点数が少なく、将来的には自律飛行（予め設定した飛行ルートに沿って機体を自動飛行させる方法）が可能であり、eVTOL の社会実装によって、新たな空の移動価値の創出に貢献することが期待されます。
  
- ※2) JAL・住友商事 エアモビリティ分野に関する業務提携  
<https://press.jal.co.jp/ja/release/202002/005486.html>
  
- ※3) 空の移動革命社会実装にむけた大阪ラウンドテーブル  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/energy/evtol/index.html>
  
- ※4) -JAL、2025 年日本国際博覧会未来社会ショーケース事業空飛ぶクルマの運航事業者に選定  
<https://press.jal.co.jp/ja/release/202302/007232.html>  
-住友商事・JAL 令和 4 年度 大阪府空飛ぶクルマ都市型ビジネス創造補助金事業「無人機管制システムによる空飛ぶクルマ運航シミュレーション」  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/6927/320sumisyo20keisai.pdf>  
-住友商事 令和 5 年度 大阪府空飛ぶクルマ都市型ビジネス創造補助金事業「空飛ぶクルマ試験飛行・見学会」  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/62876/sumitomosyouji.pdf>

以上